

## リニア新幹線 鈴鹿を通る

### ほとんどトンネル、9兆円の大計画、いま必要か？

9月11日の市議会本会議一般質問で、私は「リニア中央新幹線」計画についてただしました。リニア新幹線は、時速500キロで走り東京・大阪間を67分で結ぶ計画で、1970年代から検討が行なわれていましたが、まだ構想の段階でした。ところが、2011年5月国土交通大臣がJR東海に「建設指示」を出し、JR東海は「東京・名古屋間を2027年、東京・大阪間を2045年開業、建設資金9兆円以上」との目標を立て、計画推進に動き出しました。

2027年は今から15年後、その年に開通するためには、もう今からルート決定・工事着工・完成のスケジュールが急ピッチで組まれていくでしょう。そして名古屋から大阪までの計画も、一体に進むこととなります。整備計画には名古屋から奈良を通り大阪に行くことが明記されているので、かならず鈴鹿市のどこかを横断するルートになる見通しです。

### 多くの問題点が論議もされずに突っ走る計画

本年5月、日本共産党の志位委員長は「リニア新幹線に反対する」との見解を発表、多くの問題点を指摘しました。リニア建設には「大義」がない。国民的な要望も必要性もない。東海道新幹線の輸送人員は20年間横ばい、1時間半ほどの時間短縮への国民の要望も社会経済的要請もない。国民への多大な負担と犠牲の押し付けが起きる危険性がある。輸送需要が1.5～1.8倍という甘い見通し、路線の80%がトンネル、その大部分が40mより深い地下、南アルプスの真下にトンネルを掘るなど、工事費が大きく膨らむ。建設推進はJR東海まかせ、ツケは国民に、ということは許されない。

使用電力は新幹線の3倍以上、電力浪費型の交通体系を導入することにも道理はない。ほとんどトンネルや大深度地下を通るのに、運転手が乗らない遠隔操縦で、事故や地震、火災などから乗客の安全を確保（次ページへ）

(前ページより)できるのかは大きな疑問である。また強力な電磁波が人体に及ぼす影響も大きな不安である。リニア建設ではなく、東海道新幹線の地震・津波対策、東日本大震災からの鉄道網の復旧などを行なうべきである。国民が肩代わりしている旧国鉄時代の借金がまだ19兆円もある。9兆円もかけてリニア新幹線を作る余裕があるなら、その利益を国民に返し、東日本の復旧に充てるべきである。「中間駅」の主要目的は緊急の避難場所であり、地方都市からの乗客や在来線との接続などは眼中になく、街づくりとも無縁である。過大な期待、過大な投資が自治体を押しつぶすことになる。リニアだのみの活性化は、きわめて危険である。

## 「リニア三重県期成同盟会」の参加は見直すべき

以上のような問題点・疑問点が多くあるのに、推進派の組織である「リニア新幹線建設促進三重県期成同盟会」に、鈴鹿市も参加しています。私は一方的な推進の姿勢に立つのではなく、中立的な立場から調査研究することを求めました。リニアはもう「夢の超特急」の段階ではなく、計画の実行段階に入っているのに、お付き合いで推進の側にいることは、この先の莫大な負担やムダ使いに最後までお付き合いすることになります。いま必要なことは、JR東海も政府も公表していないデータや計画の詳細を明らかにして、市民的な論議を進めて客観的に判断することです。

---

## 末松市長、退職金もらいますか？

11日の本会議一般質問で、昨年6月に引き続いて市長など特別職の退職金について、末松市長にたずねました。

昨年退任した川岸前市長の4年分の退職金は1904万円、松原副市長の退職金は1028万円でした。この金額が妥当かどうかは、市民が判断するものですが、末松市長は市民に納得できる説明ができるでしょうか？三重県の鈴木英敬知事は就任早々、特例条例をつくって自分の「給与30%減、ボーナス50%減、退職金は支給しない」としました。

末松市長は「特別職報酬審議会」にはかるような答弁をしましたが、私は以前に、審議会は「給与月額」を対象にするもので、退職金は対象にならないとの議会答弁があったことを示し、鈴木知事のように自分で決めればいいことだと決断を求めました。2年後の任期末までに考えてもらいましょう。

# 市庁舎非常用発電設備に異常発見

## 不誠実な請負業者の対応に、市が損害賠償提訴

市庁舎の地下に設置されている非常用発電設備に、4年前に異常が発見され、2年前に修理工事をしたが、その異常の原因や責任について設置した業者が認めないために、修理の費用4500万円を市が肩代わりしたままになっています。この9月議会に業者に損害賠償を請求する提訴の議案が出されましたが、業者側の不誠実な対応が焦点になっています。

今回の異常は、新庁舎完成からわずか2年ほどで発見され、発電機のコンプレッサ吸気ダクトに多量のゴミやコンクリート破片があり、それが機械を損傷したというものです。明らかに業者側に非があり、市の側には責任はありません。それなのに業者側は、「2年の瑕疵担保期間を過ぎた」との理由で支払いに応じようとしなないというのです。

相手側は名だたる大企業の清水建設・トーエネック・ヤンマーエネルギーシステム・石本建築事務所です。常識で考えても、自分が請け負った建物に不具合があれば、これは信用問題ですから直ちに修理するのが当然です。しかしその責任を認めようとせず、市に修理代金を請求するという厚かましい態度に終始しています。大企業がこんなモラルハザードになっているとは、と驚きました。市庁舎の他の所は大丈夫かと、心配にもなります。

---

## 今年のがが田のコメは大豊作でした

9月議会の最中でしたが、無事に今年の新刈りが終わりました。と言っても、友人がコンバインであつという間に刈り取ってくれたのですが。そして籾摺りをしてもらって受け取りに行くと、いつになく袋が多いのです。数えてみると20袋×30キロ、10俵もありました。「何かの間違いでは」と聞いても「全部お前の所のコメや」との返事。私がコメ作りを始めて以来の最高記録、大豊作となりました。

特別に世話をするわけでもなく、水を絶やさず畦の草をまめに刈った程度ですが、去年より3俵も多かったのは、ひとえに天気のおかげだと思います。畑のナスやピーマン、サツマイモ、トマトもまあまあ出来、日除けに作ったゴーヤもよく取れました。プロの立派な作品にはかないませんが、それでも食卓の足しには十分になりました。

ずいそう



## カッコいい、81歳の高倉健

ひさしぶりに見た映画「あなたへ」は、主役の高倉健のために作られた作品である。富山から長崎までの自然や町の風景、旅の途上で出会った人たちとの交流、そして亡くなった妻の願いのとおり、ふるさとの海に散骨をする。一つ一つのシーンが、いつまでも記憶に残るようないい風景で、せりふが少なくても見る側を引き込む人物の表情や「間」がある。高倉健は、そこに立っているだけで絵になる、何も言わなくてもその立ち姿から思いが伝わってくる。健さんはほんとにカッコいい、作ったキャラクターでなく、その生き方が自然と、顔に姿に出ているカッコよさである。

### 「生き方」が立ち姿に表れる「孤高の人」

70年代の映画館は活気があったが、私は高倉健のヤクザ映画には見向きもせず、渥美清の「寅さん」ばかりを見ていた。健さんを見て「いいなあ」と思ったのは、77年、山田洋次監督の名作「幸福の黄色いハンカチ」が初めてだった。健さんがヤクザ路線の東映からフリーになって、自分の本当にやりたい役をやろうと転換したころの作品だ。

あとで気がついたことだが、タイプの異なる寅さんと健さんに共通するものがある。それは、どちらもスターではあるが、群れることを好まない「孤高の人」というイメージだ。私生活はまったく明らかにせず公私のけじめをつける、むやみに付き合いを広げたりせず、本当の友を大切に、カネや権威に無頓着、つねに謙虚で勉強家である、そんな印象がどちらにも強い。

先日NHKが、のべ2時間の健さんへのインタビューを特集していたが、人間・高倉健を、その言葉や表情、私生活にもせまりながら掘り下げたいいい番組だった。「あなたへ」の中でも、俳優・高倉健と映画の役柄・倉島とがまったく重なり合っ見える。健さんが倉島なのか、倉島が健さんなのか、要するに映画の中の高倉健と、インタビューに答える素顔の健さんとが、まるで同一人物だということだ。どんな役にもなりきって演じる役者もいいが、その人にしか出来ない役だけを演じる役者もいい。見る人は、その役者を通して人生について、人間について考えることができるのだから。81歳でも若々しい健さん、また次の映画を楽しみに待ちたい。